



2026年1月期 第3四半期決算説明資料

2025年12月
Japan Eyewear Holdings 株式会社（証券コード5889）

Contents

01 2026年1月期第3四半期 業績概況

- 連結業績概況
- 事業セグメント別業績

02 2026年1月期第3四半期までの取り組み

トピックス

◆ 2025年10月29日、東京証券取引所プライム市場へ移行

◆ プライム市場への移行と同時に実施した株式売出しの結果、株主構成は以下の概要通りとなった

	(売出し前) 保有株数	(売出し前) 保有比率	(売出し後) 保有株数	(売出し後) 保有比率
金子インベスト株式会社	9,090,640	37.7%	9,090,640	37.7%
日本企業成長投資1号投資事業有限責任組合	3,455,840	14.3%	1,131,340	4.7%
CAMELLIA FUND I CAYMAN, LP	1,867,860	7.7%	611,560	2.5%
CERASUS FUND I CAYMAN, LP	1,450,600	6.0%	474,900	2.0%
WISTERIA FUND I CAYMAN, LP	958,140	4.0%	313,740	1.3%
その他	7,303,580	30.3%	12,504,480	51.8%
合計（2025年7月末日時点）	24,126,660	100.0%	24,126,660	100.0%

01

2026年1月期第3四半期 業績概況
• 連結業績概況

エグゼクティブサマリー

2026年1月期第3四半期累計実績

売上収益	13,422百万円	(+ 11.0%)	◆ 第3四半期累計売上収益・営業利益・四半期利益は過去最高額を達成
売上総利益率	79.3%	(+ 0.4pts.)	◆ 店舗売上が12.8%増加し、売上収益成長に貢献
営業利益	4,319百万円	(+ 10.1%)	◆ 第2四半期において伸び悩んだインバウンド売上は第3四半期には回復し、前年比28.7%増の1,017百万円を獲得し、第3四半期累計で前年比18.5%増の2,828百万円となった
営業利益率	32.2%	(▲ 0.3pts.)	◆ 営業利益率は引き続き高水準を維持
四半期利益	2,651百万円	(+ 9.4%)	

金子眼鏡セグメント

売上高	9,000百万円	(+ 13.9%)	◆ 店舗売上が12.4%増加し、売上高成長に貢献
セグメント利益	3,417百万円	(+ 14.6%)	◆ 国内店舗の既存店売上高前年比は第3四半期累計107.6%、第3四半期113.4% ◆ 国内3店舗・海外4店舗の新規出店と国内2店舗の退店を実施

フォーナインズセグメント

売上高	4,422百万円	(+ 5.5%)	◆ 店舗売上が14.0%増加し、売上高成長に貢献
セグメント利益	1,333百万円	(+ 5.9%)	◆ 国内店舗の既存店売上高前年比は第3四半期累計108.8%、第3四半期114.1% ◆ 国内2店舗の新規出店を実施 ◆ 国内卸売上は引き続き減収。海外卸売上は増収に転じ好調に推移

() 内は前年比

連結PL（第3四半期累計）

- 売上収益は前期比11.0%増の約134億円、営業利益は前期比10.1%増の約43億円
- 売上総利益率は前期比0.4ポイント上昇の79.3%、営業利益率は32.2%と高水準を維持
- 防衛特別法人税創設に伴う将来の実効税率上昇により、法人所得税費用が増加

百万円

	2025/1期Q3	2026/1期Q3	増減	前年同期比
売上収益	12,095	13,422	1,327	111.0%
売上原価	2,550	2,782	231	109.1%
売上総利益	9,545	10,640	1,095	111.5%
売上総利益率	78.9%	79.3%	0.4Pt	-
販売費及び一般管理費	5,630	6,336	706	112.6%
その他の収益/その他の費用（▲）	8	15	7	179.1%
営業利益	3,923	4,319	395	110.1%
営業利益率	32.4%	32.2%	▲ 0.3Pt	-
EBITDA	5,154	5,724	570	111.1%
EBITDA率	42.6%	42.6%	0.0Pt	-
調整後EBITDA	5,188	5,818	630	112.1%
金融収益/金融費用（▲）	▲ 343	▲ 245	98	71.3%
税引前四半期利益	3,579	4,074	494	113.8%
法人所得税費用	1,156	1,422	265	123.0%
四半期利益	2,423	2,651	228	109.4%

注:

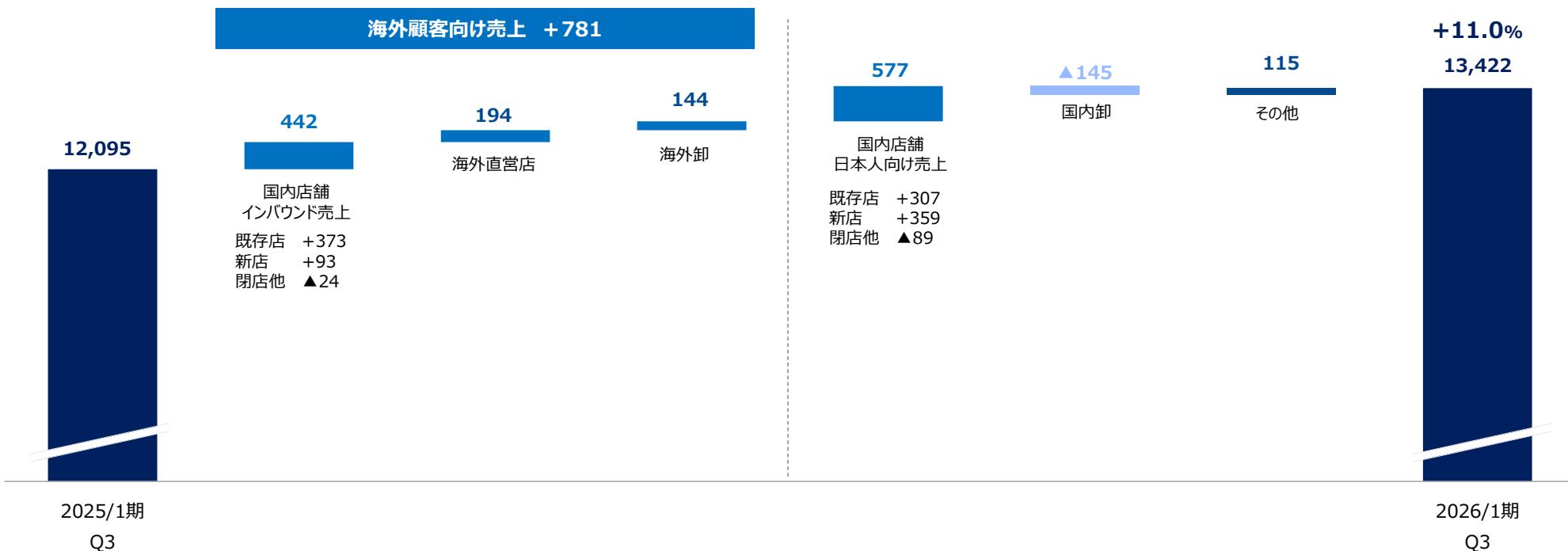
1. EBITDA=営業利益+減価償却費+識別可能資産償却
2. 調整後EBITDA=EBITDA（営業利益+減価償却費+識別可能資産償却費）+上場関連費用（注3）+買収関連費用（注4）
3. 法律事務所への支払報酬や外部コンサルタント費用等の上場に関連する一時的な費用であります。
4. 2025年1月期にタイホウ社、2026年1月期にハンズ社を買収した際の費用であります。

売上収益増減（第3四半期累計）

- 連結売上収益は前年同期比+11.0%の約134億円を達成
- 引き続き堅調なインバウンド売上により海外顧客向け売上は前年比7.8億円増。新規出店を含む国内店舗における日本人向け売上は5.7億円増

第3四半期累計

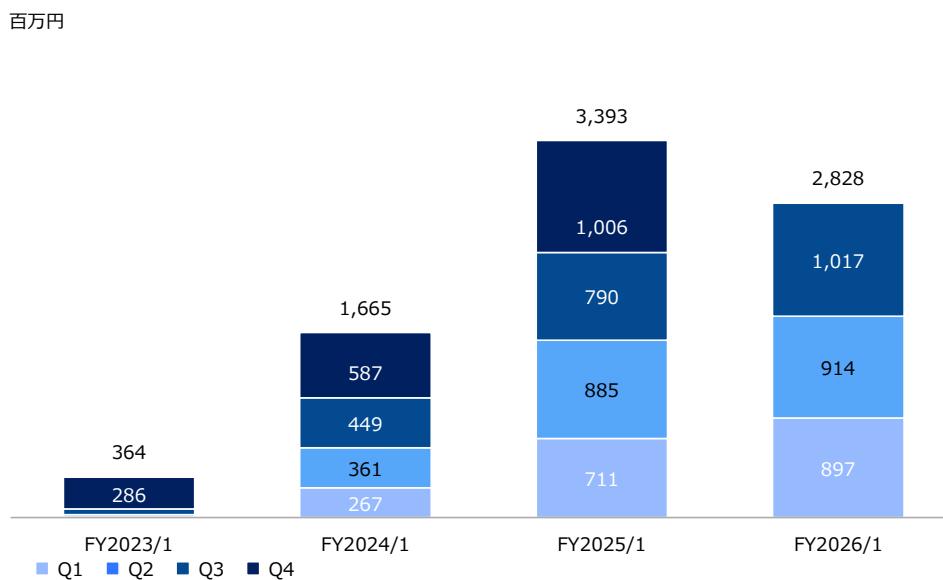
百万円



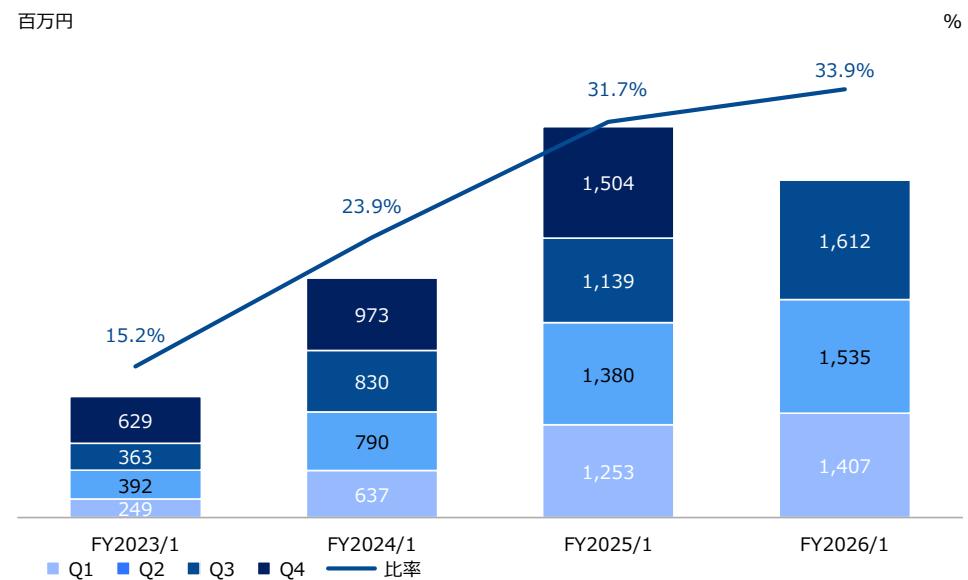
連結PL（海外向け売上）

- 第3四半期の国内店舗におけるインバウンド顧客向け売上は、前年同期比28.7%増の約10億円となり、2025年1月期第4四半期実績を上回って過去最高額となった
- 同じく第3四半期の海外顧客向け売上は前年同期比41.5%増の約16億円となり、連結売上に占める比率は33.9%を達成

四半期別インバウンド売上⁽¹⁾



海外顧客向け売上金額・比率⁽³⁾



第3四半期インバウンド売上1,017百万円

2025年8月～10月訪日者数10,591千人⁽²⁾

前年同期比 +28.7%

前年同期比 +16.2%

注:

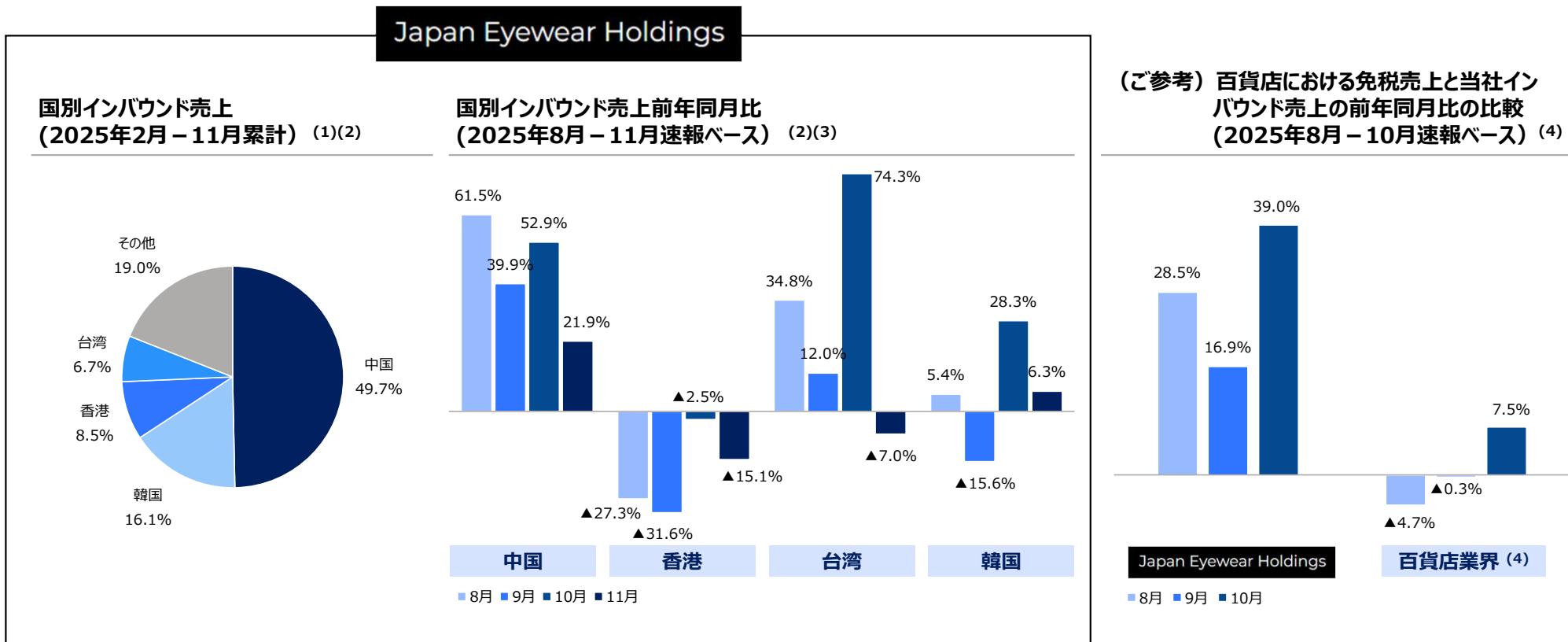
1. 国内直営店における訪日外国人顧客による売上収益（卸販売先におけるインバウンド売上は含まない）

2. 2025年11月18日付日本政府観光局（JNTO）リースより。2025年9月及び10月は推計値

3. 海外直営店舗での売上収益、海外における卸売による売上収益、インバウンドの売上収益（直営店における訪日外国人顧客による売上収益を指しており、国内卸売における訪日外国人顧客による売上収益は含まない）を加算したデータ。これを連結売上で除したものを比率としている

直近のインバウンド売上動向

- 国内店舗におけるインバウンド売上のうち約80%を中国・韓国・香港・台湾からの顧客が占める
- これらの国・地域からの売上は6月～7月に前年比で減少したが、その後回復。第3四半期のインバウンド売上は過去最高となった
- 中国からの訪日者数減少とそれに伴うインバウンド売上減少が懸念されるが、11月度実績においてはその影響は見られていない



- 注:
1. 金子眼鏡セグメント及びフォーナインズセグメントにおける合計値
 2. 2025年2月～2025年11月速報の合計値
 3. 2025年8月～2025年11月速報の各月における実績値
 4. 百貨店は日本百貨店協会開示資料を参照。当社はインバウンド売上高合計を参照

連結販管費（第3四半期累計）

- 販管費は9か月間で約7億円増加。主な増加要因は店舗数増加、店舗売上増加に伴う費用増

百万円

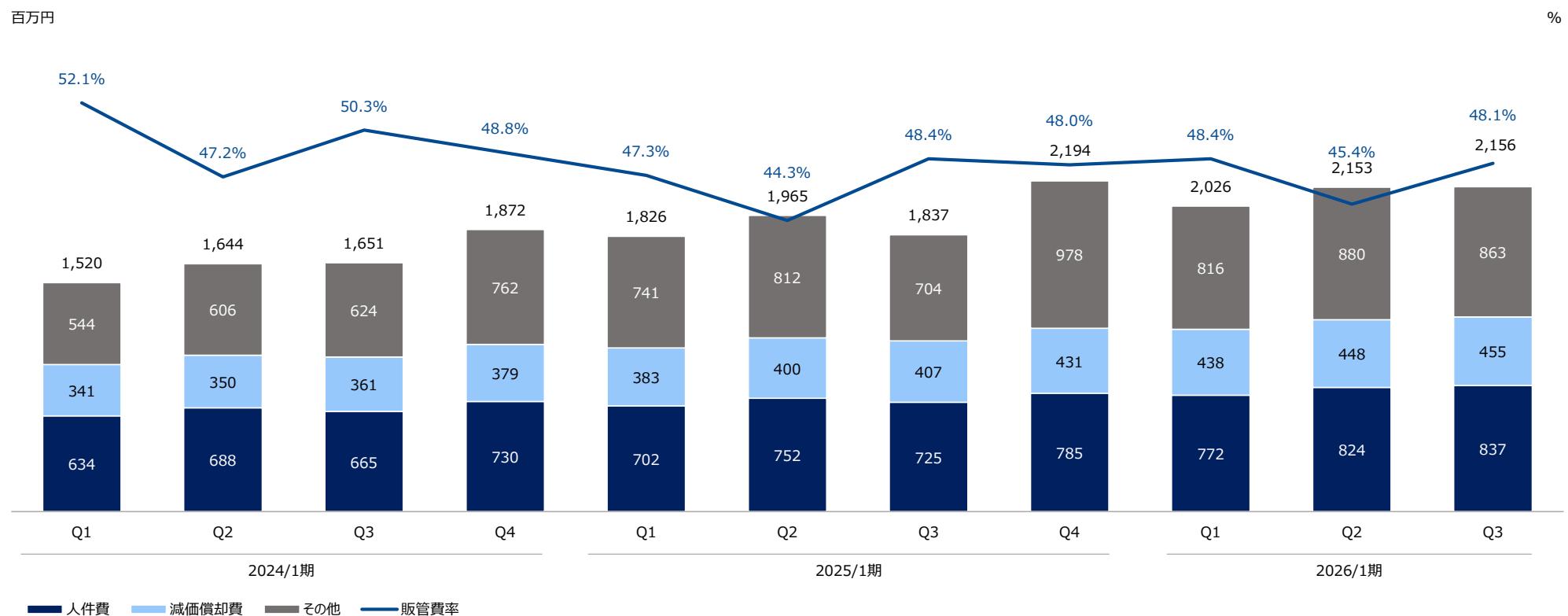
	2025/1期Q3	2026/1期Q3	増減/pt差	前年同期比	備考
販売費および一般管理費合計	5,630	6,336	706	112.6%	
売上比	46.5%	47.2%	0.7Pt		
人件費	2,180	2,434	253	111.6%	主として店舗数増による人件費増
売上比	18.0%	18.1%	0.1Pt		
減価償却費 ⁽¹⁾	1,191	1,342	150	112.7%	出店に伴う使用権資産償却増
売上比	9.8%	10.0%	0.2Pt		新工場設立による有形固定資産等償却増（ほか）
賃借料	676	778	101	115.1%	店舗売上増加に伴う歩合家賃増
売上比	5.6%	5.8%	0.2Pt		
支払手数料	352	422	70	119.9%	ハンズ社買収に伴う手数料増
売上比	2.9%	3.2%	0.2Pt		
販売促進費	311	365	54	117.4%	
売上比	2.6%	2.7%	0.1Pt		
販売代行手数料	209	274	65	131.1%	店舗運営委託先向け手数料
売上比	1.7%	2.0%	0.3Pt		店舗売上増加に伴い増加
広告宣伝費	48	39	▲ 8	81.8%	
売上比	0.4%	0.3%	▲ 0.1Pt		
その他	661	680	19	102.9%	
売上比	5.5%	5.1%	▲ 0.4Pt		

注:

1. 減価償却費には店舗賃貸借にかかる使用権資産の償却が含まれています。（2025/1期 1,007百万円、2026/1期 1,089百万円）

連結販管費推移

- 増収効果により、第3四半期3か月間の販管費率は前年同期比0.3ポイント低下



連結PL（第3四半期）

- 売上収益は前期比18.2%増の約44億円、営業利益は前期比22.6%増の約14億円
- 売上総利益率は前期比0.4ポイント上昇の79.8%、営業利益率は31.9%と高水準を維持

百万円

	2025/1期Q3 (8月～10月)	2026/1期Q3 (8月～10月)	増減	前年同期比
売上収益	3,795	4,485	690	118.2%
売上原価	784	907	123	115.7%
売上総利益	3,011	3,577	566	118.8%
売上総利益率	79.3%	79.8%	0.4Pt	-
販売費及び一般管理費	1,837	2,156	319	117.4%
その他の収益/その他の費用（▲）	▲ 4	11	15	▲ 264.1%
営業利益	1,169	1,432	263	122.6%
営業利益率	30.8%	31.9%	1.1Pt	-
EBITDA	1,589	1,909	320	120.1%
EBITDA率	41.9%	42.6%	0.7Pt	-
調整後EBITDA	1,592	1,939	346	121.8%
金融収益/金融費用（▲）	▲ 72	▲ 86	▲ 14	120.1%
税引前四半期利益	1,096	1,346	249	122.7%
法人所得税費用	350	437	87	125.0%
四半期利益	746	908	161	121.7%

注:

1. EBITDA=営業利益+減価償却費+識別可能資産償却

2. 調整後EBITDA=EBITDA（営業利益+減価償却費+識別可能資産償却費）+上場関連費用（注3）

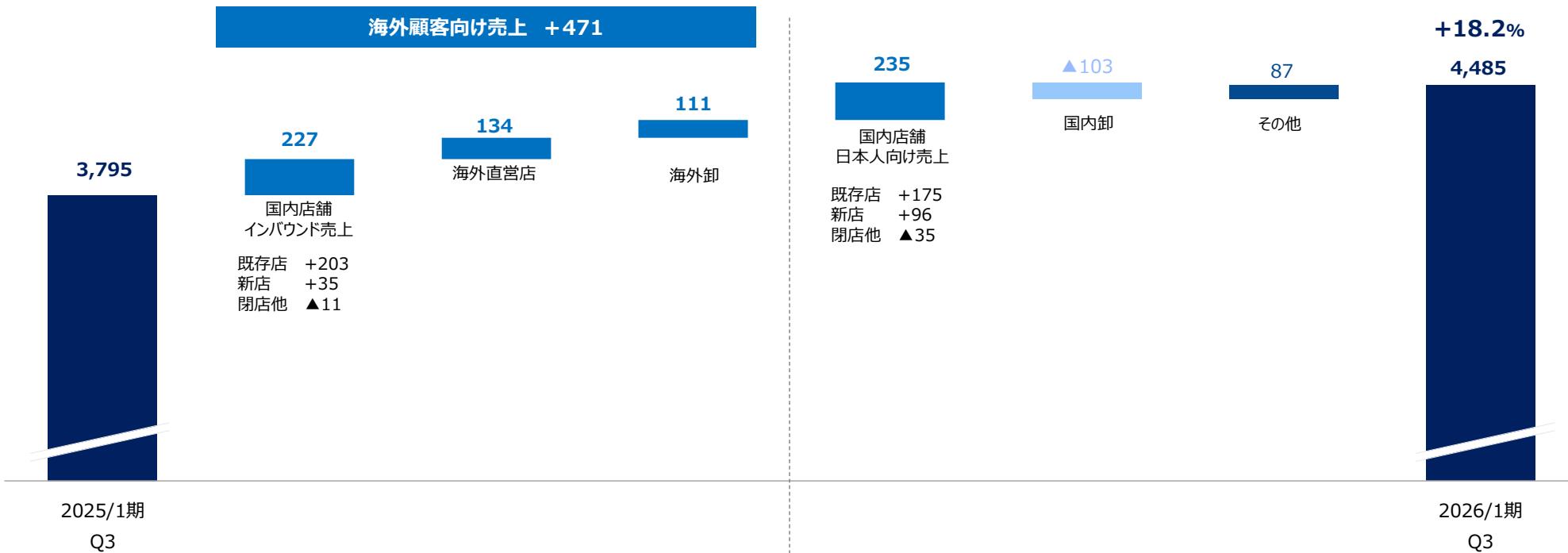
3. 法律事務所への支払報酬や外部コンサルタント費用等の上場に関連する一時的な費用であります。

売上収益増減（第3四半期）

- 連結売上収益は前年同期比+18.2%の約44億円を達成
- 引き続き堅調なインバウンド売上により海外顧客向け売上は前年比4.7億円増。新規出店を含む国内店舗における日本人向け売上は2.3億円増

第3四半期

百万円



連結販管費（第3四半期）

- 販管費は3か月間で約3億円増加。主な増加要因は店舗数増加、店舗売上増加に伴う費用増

百万円

	2025/1期Q3 (8月～10月)	2026/1期Q3 (8月～10月)	増減/pt差	前年同期比	備考
販売費および一般管理費合計	1,837	2,156	319	117.4%	
売上比	48.4%	48.1%	▲ 0.3Pt		
人件費	725	837	111	115.4%	主として店舗数増による人件費増
売上比	19.1%	18.7%	▲ 0.5Pt		
減価償却費 ⁽¹⁾	407	455	48	111.9%	出店に伴う使用権資産償却増 新工場設立による有形固定資産等償却増（ほか）
売上比	10.7%	10.2%	▲ 0.6Pt		
賃借料	211	258	47	122.3%	店舗売上増加に伴う歩合家賃増
売上比	5.6%	5.8%	0.2Pt		
支払手数料	97	137	39	140.9%	
売上比	2.6%	3.1%	0.5Pt		
販売促進費	90	124	34	137.9%	
売上比	2.4%	2.8%	0.4Pt		
販売代行手数料	69	94	25	136.2%	店舗運営委託先向け手数料 店舗売上増加に伴い増加
売上比	1.8%	2.1%	0.3Pt		
広告宣伝費	20	11	▲ 8	55.8%	
売上比	0.5%	0.3%	▲ 0.3Pt		
その他	216	237	21	110.0%	
売上比	5.7%	5.3%	▲ 0.4Pt		

注:

1. 減価償却費には店舗賃貸借にかかる使用権資産の償却が含まれています。（2025/1期 342百万円、2026/1期 368百万円）

連結PL（通期予想進捗）

- 第2四半期におけるインバウンド売上の伸び悩みを反映し、売上収益予想を1.5億円下方修正
- 第3四半期累計実績の通期修正予想に対する進捗率は計画比若干未達の売上収益71.0%・営業利益69.7%・当期利益66.3%となっているものの、引き続き予想達成を目指す

百万円

	通期修正予想	2026/1期Q3	進捗率
売上収益	18,900	13,422	71.0%
売上原価	3,850	2,782	72.3%
売上総利益	15,050	10,640	70.7%
売上総利益率	79.6%	79.3%	-
販売費及び一般管理費	8,860	6,336	71.5%
その他の収益/その他の費用（▲）	10	15	159.3%
営業利益	6,200	4,319	69.7%
営業利益率	32.8%	32.2%	-
EBITDA	8,000	5,724	71.6%
EBITDA率	42.3%	42.6%	-
調整後EBITDA	8,089	5,818	71.9%
金融収益/金融費用（▲）	▲ 300	▲ 245	81.8%
税引前利益	5,900	4,074	69.1%
法人所得税費用	1,900	1,422	74.9%
当期利益/四半期利益	4,000	2,651	66.3%

注:

1. EBITDA=営業利益+減価償却費+識別可能資産償却費

2. 調整後EBITDA=EBITDA（営業利益+減価償却費+識別可能資産償却費）+上場関連費用（注3）+買収関連費用（注4）

3. 法律事務所への支払報酬や外部コンサルタント費用等の上場に関連する一時的な費用であります。

4. 2025年1月期にタイホウ社、2026年1月期にレンズ社を買収した際の費用であります。

連結貸借対照表

- 流動資産約9億円減少のうち、現預金残高が約11億円減少。ハンズ社買収等により棚卸資産が約5億円増加
- 四半期利益計上によるプラス、配当金支払によるマイナスにより資本合計は約5億円増加

百万円

	2025/1月末	2025/10月末	増減	対前期末
総資産	38,833	39,012	179	100.5%
構成比	100.0%	100.0%		
流動資産	7,436	6,488	▲ 948	87.2%
構成比	19.1%	16.6%		
非流動資産	31,396	32,524	1,127	103.6%
構成比	80.8%	83.4%		
流動負債	5,220	5,239	18	100.4%
構成比	13.4%	13.4%		
非流動負債	17,191	16,763	▲ 427	97.5%
構成比	44.3%	43.0%		
資本合計	16,421	17,010	588	103.6%
構成比	42.3%	43.6%		
銀行借入金残高	12,900	12,925	25	100.2%
棚卸資産	1,871	2,374	502	126.9%

連結キャッシュ・フロー計算書（第3四半期累計）

- 法人所得税の支払、ハンズ社買収、株主様への配当金支払等のため、前年同期末と比較して現預金が約12億円減少

百万円

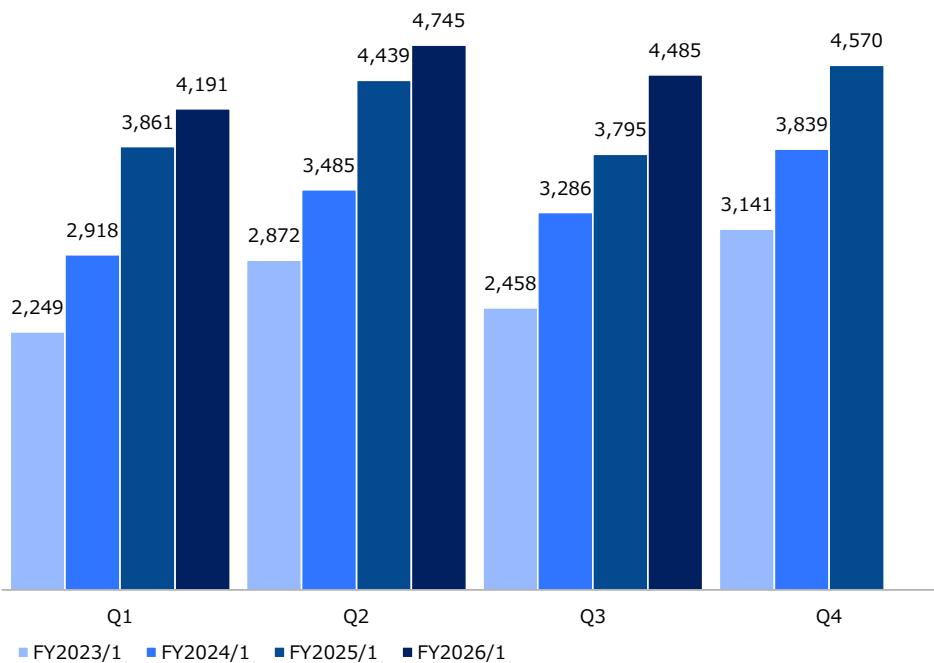
	2025/1期Q3	2026/1期Q3 当期実績の主な内訳	
営業キャッシュ・フロー（小計）	5,059	5,658	
営業キャッシュ・フロー	3,605	3,445 税引前四半期利益 減価償却費 棚卸資産の増減額（▲は増加） 法人所得税の支払額	+4,074 +1,404 ▲363 ▲2,003
投資キャッシュ・フロー	▲1,442	▲1,517 有形固定資産の取得による支出 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	▲865 ▲654
財務キャッシュ・フロー	▲2,564	▲3,083 株主への配当金支払 リース負債の返済による支出	▲2,074 ▲1,043
現金及び現金同等物期末残高	4,057	2,780	

四半期別売上収益・営業利益推移

- 第3四半期3か月間の売上収益、営業利益はともに過去最高額を達成

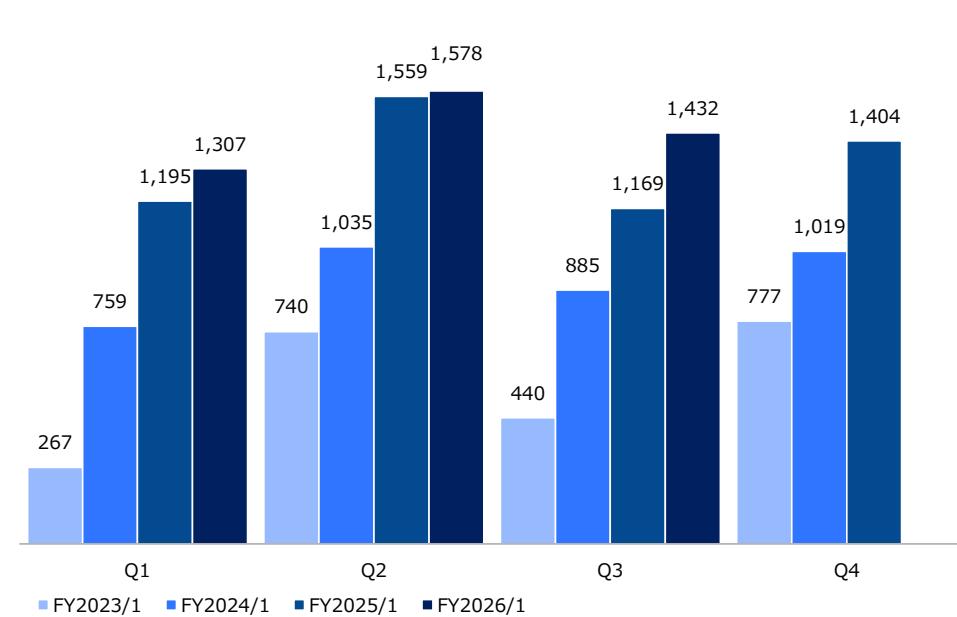
売上収益

百万円



営業利益

百万円



01

2026年1月期第3四半期 業績概況

- 事業セグメント別業績

セグメントPL（第3四半期累計）

- 金子眼鏡セグメントは+13.9%増収・+14.6%増益
- 一方のフォーナインズセグメントは国内卸売上のマイナスもあり、+5.5%増収・+5.9%増益

百万円

			2025/1期Q3	2026/1期Q3	増減	前年同期比
 金子眼鏡 <small>ESTABLISHED 1958</small>	売上高	店舗売上高	7,211	8,108	896	112.4%
		国内卸売上高	238	235	▲ 2	98.8%
		海外卸売上高	442	507	64	114.6%
		その他売上高	9	148	139	1,528.9%
	計		7,902	9,000	1,097	113.9%
	セグメント利益		2,981	3,417	435	114.6%
		店舗売上高	2,270	2,587	316	114.0%
		国内卸売上高	1,172	1,029	▲ 142	87.8%
		海外卸売上高	695	775	79	111.5%
	計		4,192	4,422	229	105.5%
共通・調整	セグメント利益		1,260	1,333	73	105.9%
		セグメント利益	▲317	▲431	▲113	135.9%
		店舗売上高	9,482	10,696	1,213	112.8%
		国内卸売上高	1,410	1,265	▲ 145	89.7%
	計		12,095	13,422	1,327	111.0%
 <small>JAPAN EYEWEAR HOLDINGS</small>	セグメント利益		3,923	4,319	395	110.1%
		店舗売上高	1,138	1,282	144	112.7%
		海外卸売上高	63	178	114	279.1%
		その他売上高				

セグメントPL（第3四半期）

- 金子眼鏡セグメントは+23.1%増収・+26.8%増益
- 一方のフォーナインズセグメントは国内卸売上のマイナスもあり、+8.2%増収・+22.7%増益

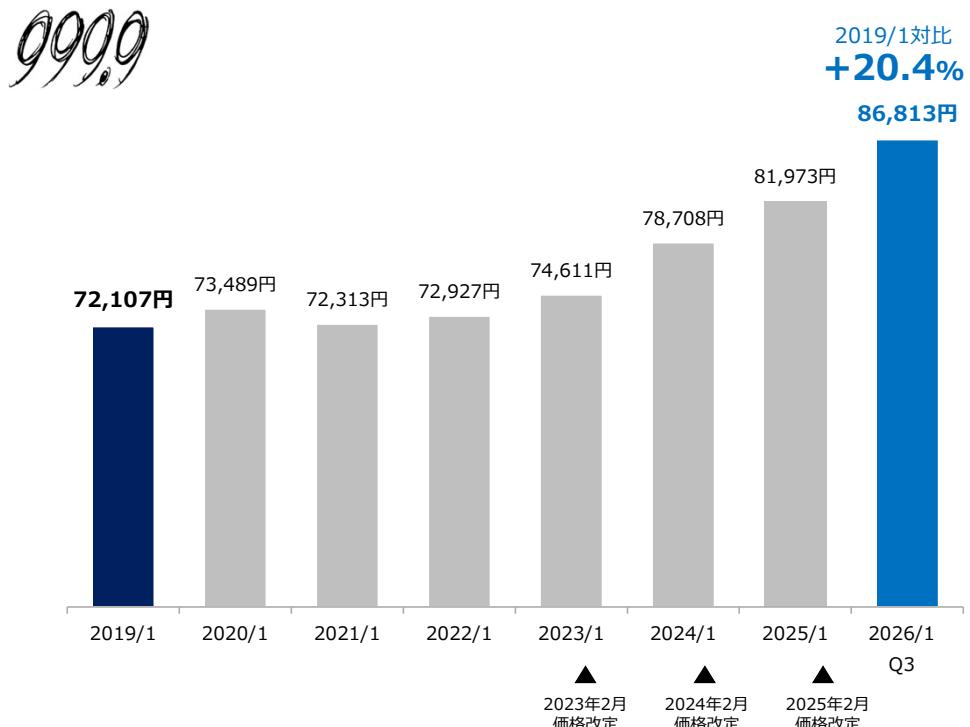
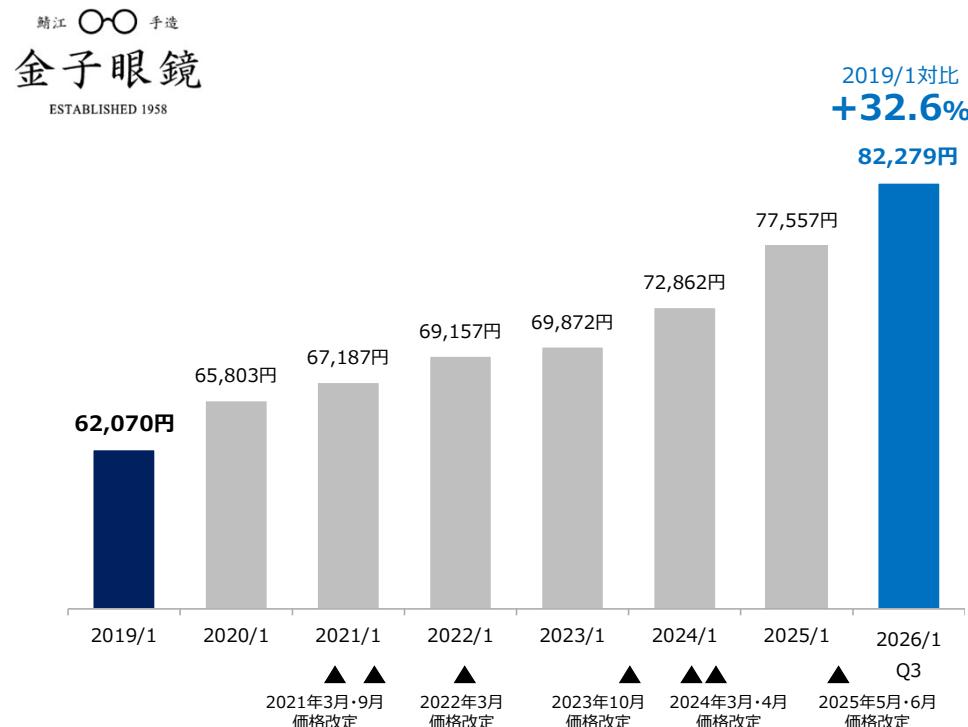
百万円

				2025/1期Q3(8月～10月)	2026/1期Q3(8月～10月)	増減	前年同期比
金子眼鏡 ESTABLISHED 1958	売上高	店舗売上高		2,359	2,788	428	118.2%
		国内卸売上高		64	45	▲ 19	70.0%
		海外卸売上高		114	176	61	153.9%
		その他売上高		▲ 2	113	115	—
	計			2,537	3,124	586	123.1%
9999	セグメント利益			940	1,192	251	126.8%
	売上高	店舗売上高		727	894	167	123.0%
		国内卸売上高		328	244	▲ 83	74.5%
		海外卸売上高		165	215	49	129.7%
		その他売上高		36	7	▲ 29	19.4%
	計			1,258	1,361	103	108.2%
JEH JAPAN EYEWEAR HOLDINGS	セグメント利益			316	388	71	122.7%
	セグメント利益			▲ 88	▲ 147	▲ 59	168.1%
	売上高	店舗売上高		3,087	3,683	595	119.3%
		国内卸売上高		393	290	▲ 103	73.7%
		海外卸売上高		280	391	111	139.6%
		その他売上高		34	120	86	353.8%
	計			3,795	4,485	690	118.2%
	セグメント利益			1,169	1,432	263	122.6%

ブランド力を背景とした継続的な既存店成長

- 国内アイウェア市場においてプレゼンスの高い2つのブランドを有することで多様なカテゴリの商品を提供でき、グループとしてのブランド力は更に向上
- 結果として一式単価の継続的な向上を通じて既存店成長を実現する

一式単価の継続的な向上⁽¹⁾



注:

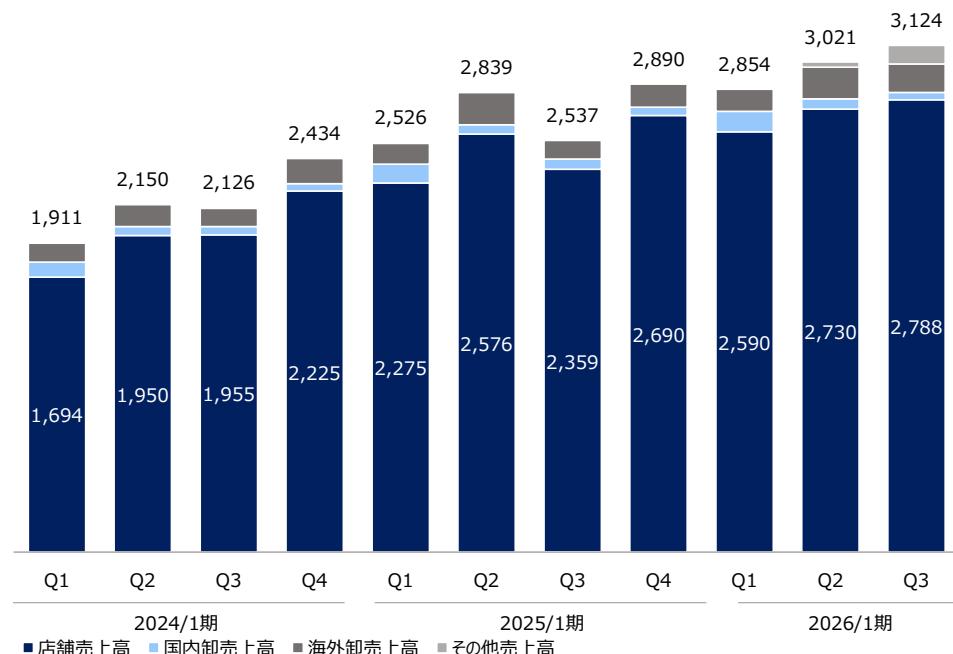
1. 一式単価はフレーム及びレンズの購入単価合計。各期2/1~1/31の集計結果

金子眼鏡

- 店舗売上が着実な成長を続けており、第3四半期のセグメント売上は前年同期比23.1%増の31億円、セグメント利益は26.8%増の約11億円。
2026年1月期第2四半期を上回り、売上・セグメント利益ともに過去最高となった
- 第3四半期累計期間において7店舗の新規出店及び2店舗の退店を実施

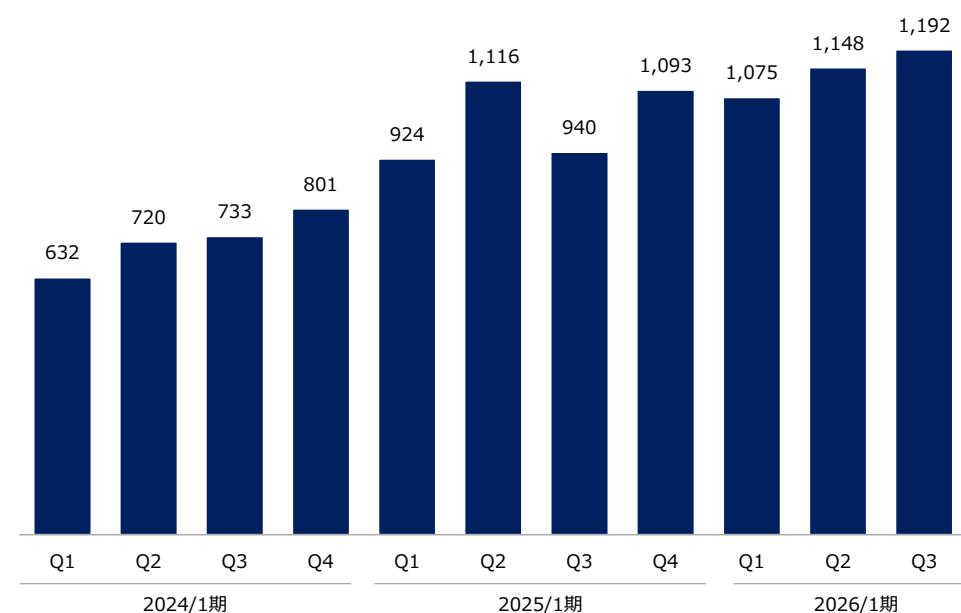
販売経路別セグメント売上

百万円



セグメント利益

百万円



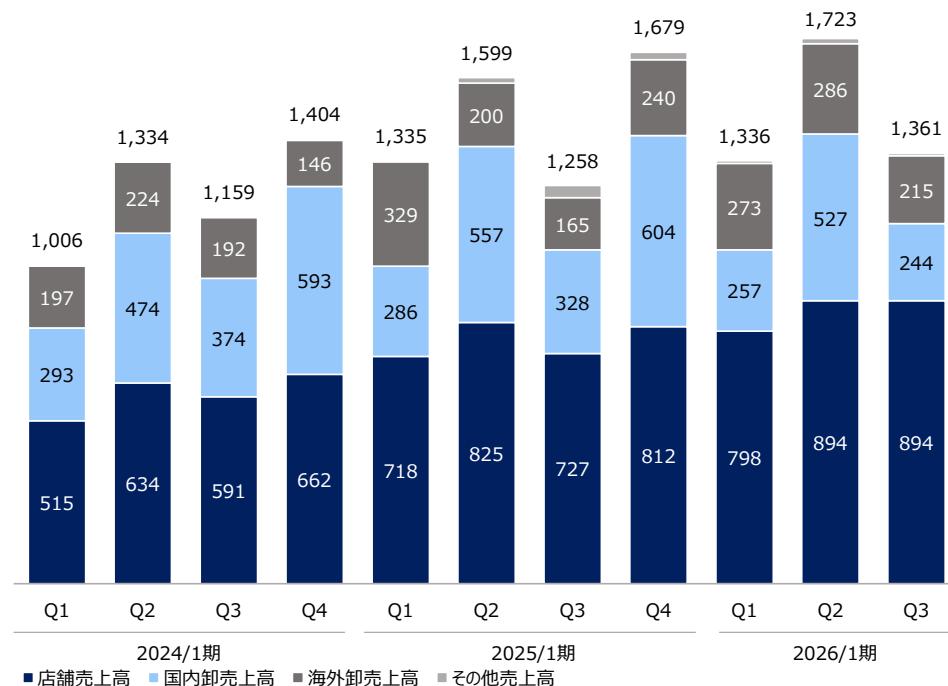
■店舗売上高 ■国内卸売上高 ■海外卸売上高 ■その他売上高

フォーナインズ

- 卸売上の変動により第3四半期のセグメント売上は前年同期8.2%増の約13億円、セグメント利益は前年同期比22.7%増の約3億円
- 2025年2月、フレーム販売価格の見直しを実施
- 第1四半期において2店舗の新規出店を実施

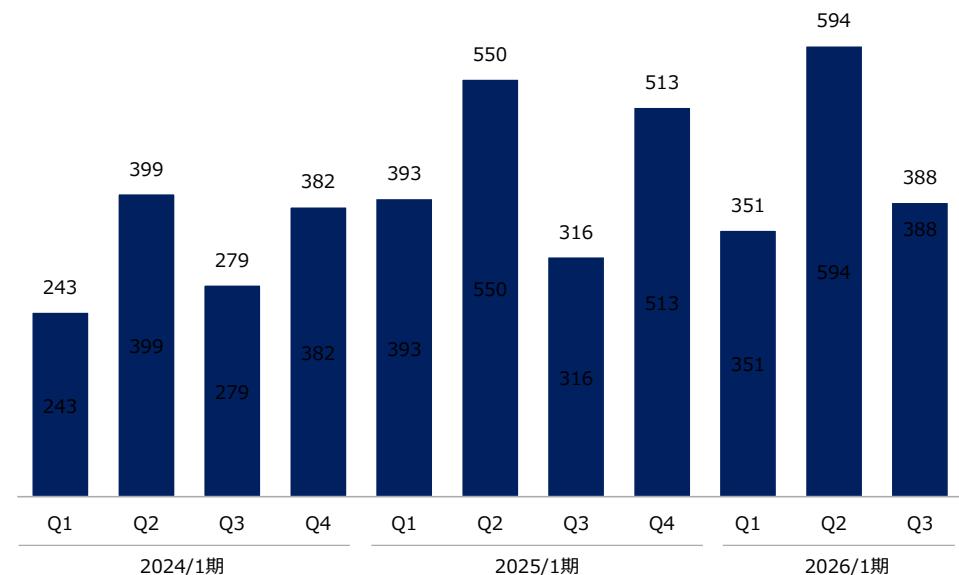
販売経路別セグメント売上

百万円



セグメント利益

百万円

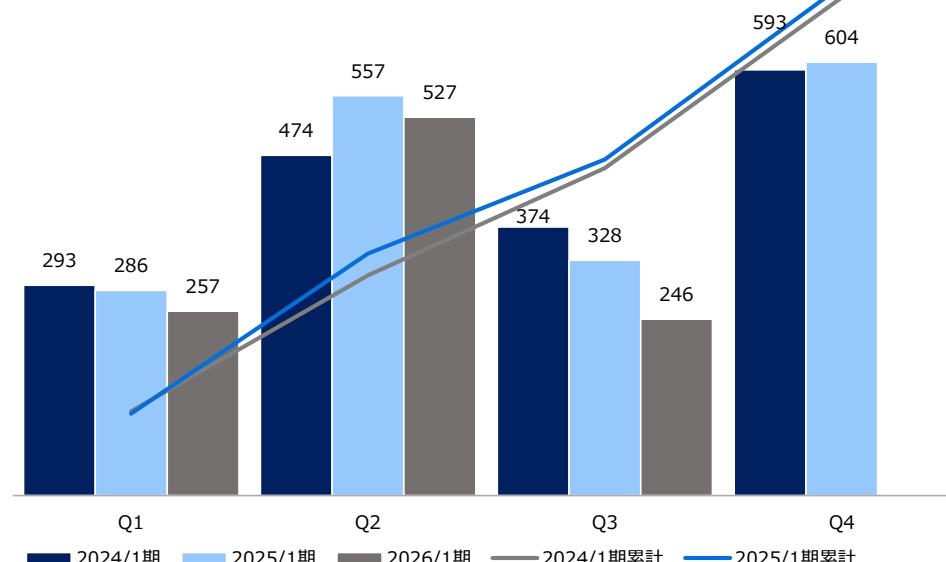


フォーナインズ

- 国内卸売上第3四半期実績は第2四半期までに引き続き前年同期比減収となった
- フォーナインズ国内卸事業は、「国内眼鏡小売店向け売上」と「特定ブランドや特定小売店とのタイアップ（OEM）」に大別される。第3四半期累計期間の減収は、主としてOEM売上の減少が主因（小売店向け卸売上は▲36百万円、OEM売上は▲106百万円）
- 海外卸売上第3四半期実績は約30%増収となり、引き続き好調に推移

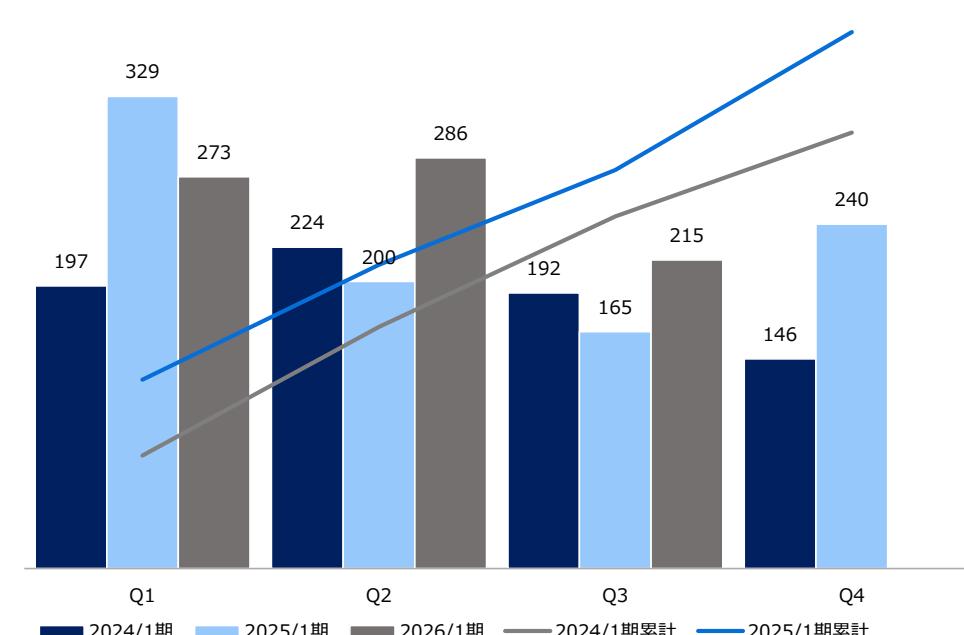
四半期別国内卸売上

百万円



四半期別海外卸売上

百万円



02

2026年1月期第3四半期までの取り組み

第3四半期を振り返って

1

両ブランドの厳選された国内新規出店による着実な成長

2

ブランド力の浸透による海外顧客の創造

3

福井〇〇 鮎江
金子眼鏡店 9999 の統合によるグループシナジーの進化
ESTABLISHED 1958

4

世界三大産地である「鮎江」ブランドを牽引する中長期的な成長
～M&A機会の積極的な探索～



- 両ブランド合計で5店舗の新規出店と2店舗の退店を実施



- 引き続きインバウンド売上を確実に獲得
- 香港2号店と北京1号店、台湾1号店と金子眼鏡シンガポール店をオープン
- 海外卸売上は前年同期比12%成長



- 2024年に子会社化したタイホウの製造機能を活用し、フォーナインズ製品の内製強化を開始
- より高いシナジーを追求するために、社内組織を改編



- 福井県鮎江市のメッキ加工業者であるハンズを子会社化

出退店サマリー

- 2026年1月期第3四半期末の総店舗数は112
- 第3四半期累計期間において計9店舗の新規出店（金子眼鏡7店舗・フォーナインズ2店舗）、2店舗の退店を実施

		9か月間実績			通期計画			
		前期末店舗数	出店	退店/移転	2026/1 Q3 期末店舗数	出店	退店/移転	2026/1 期末店舗数
金子眼鏡	国内	83	3	2	84	3	2	84
	中国	3	1		4	1		4
	香港	1	1		2	1		2
	台湾	0	1		1	1		1
	シンガポール	0	1		1	1		1
	フランス	2			2			2
フォーナインズ	国内	15	2		17	3		18
	シンガポール	1			1			1
計		105	9	2	112	10	2	113

出退店詳細

		月	出退店	店名	商業施設・住所	
金子眼鏡	日本	3月	新規出店	金子眼鏡店 ミナモア広島店	ミナモア広島	広島県広島市
		3月	退店	KANEKO OPTICAL アクアシティお台場店	アクアシティお台場	東京都港区
		4月	新規出店	KANEKO OPTICAL ららぽーと安城店	ららぽーと安城	愛知県安城市
		7月	退店	金子眼鏡店 東急プラザ渋谷店	東急プラザ渋谷	東京都渋谷区
		10月	新規出店	金子眼鏡店 りんくうプレミアム・アウトレット店	りんくうプレミアム・アウトレット	大阪府泉佐野市
中国	6月	新規出店	金子眼鏡店 北京三里屯太古里店	三里屯太古里	中国北京市	
		新規出店	金子眼鏡店 K11 Musea	K11 Musea	香港特別行政区	
シンガポール	9月	新規出店	金子眼鏡店 シンガポール高島屋 S.C.店	シンガポール高島屋 S.C.	オーチャード ロード	
台湾	10月	新規出店	金子眼鏡店 0 km 山物所	0 km	台北市大安	
フォーナインズ	日本	3月	新規出店	フォーナインズ グラングリーン 大阪店	グラングリーン大阪	大阪府大阪市
		4月	新規出店	フォーナインズ ワンフクオカビルディング店	ワンフクオカビルディング	福岡県福岡市

金子眼鏡新規出店

2025年3月 OPEN : 金子眼鏡店 ミナモア広島店



2025年4月 OPEN : KANEKO OPTICAL ららぽーと安城店



フォーナインズ新規出店

2025年3月 OPEN : フォーナインズ グラングリーン 大阪店



2025年4月 OPEN : フォーナインズ ワンフクオカビルディング店



中国・香港への出店を通じたブランド認知度の拡大

- 中国本土、香港においてブランド力を醸成する立地での継続的な出店に成功
- アジアにおける着実なブランドイメージ醸成により、オープン以降順調に推移

中国4号店：金子眼鏡店 北京三里屯太古里店



香港2号店：金子眼鏡店 K11 Musea



シンガポール・台湾への出店を通じたブランド認知度の拡大

- 中国本土、香港に続いて、シンガポール、台湾に1号店をオープン。本邦のみならず海外でのカスタマーロイヤリティの形成を企図
- アジアにおける着実なブランドイメージ醸成により、オープン以降順調に推移

シンガポール1号店：金子眼鏡店 シンガポール高島屋S.C.店



2025年9月にシンガポール1号店をオープン

金子眼鏡店のシンガポール初出店となる、シンガポール高島屋ショッピングセンターは、世界中の人々が集まる国際的なエリアであり、現地で最も活気ある繁華街オーチャードに立地しています

台湾1号店：金子眼鏡店 0km 山物所



2025年10月に台湾1号店をオープン

台北・大安区に位置する0km 山物所は、百年建築をリノベーションした複合文化空間で、台湾の山林文化を現代的に再構築し、静寂と創造が交差する新たな文化拠点として注目を集めています

キャピタル・アロケーション

- 潤沢に産み出されるキャッシュを原資として、株主還元と借入金返済、成長投資を適切なバランスで実施

潤沢に創出される営業キャッシュ・フロー

配当政策

- ◆ 積極的な株主還元
- ◆ 借入金返済
- ◆ 国内・海外における店舗投資の実施
- ◆ 製造力強化への投資

将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としており、年間配当性向**40%**を目安として配当を実施する方針。

2026年1月期年間配当は1株当たり**84円**を計画。

中間配当については、当初計画通り**42円**とした。

Appendix

Our Philosophy

私たちは、アイウェアを通して、
世界中の人々に「夢」「感動」「幸福」を提供し続けます。

私たちは、アイウェアを通して、
世界中の人々の文化的な生活の向上に寄与することを目指します。

私たちは、アイウェアを通してたらされる繁栄を、
関係する全ての人々と共有し、ともに成長し、社会に貢献していきます。

長期ビジョン

クラフツマンシップの伝統と革新を世界へ



会社概要

社名	Japan Eyewear Holdings株式会社	
所在地	(福井本社) 福井県鯖江市上河端8-13 (東京本社) 東京都世田谷区成城2-11-12	
創業	1958年 (金子眼鏡創業)	
設立	2019年 (旧Lunettes HD株式会社設立)	
資本金	948百万円 (2025年10月31日現在)	
代表者	代表取締役 金子 真也	
株主構成*	金子インベスト株式会社	37.7%
	日本企業成長投資 1号投資事業有限責任組合	4.7%
	Camellia Fund I Cayman,L.P	2.5%
	Cerasus Fund I Cayman,L.P	2.0%
	Wisteria Fund I Cayman,L.P	1.3%
連結子会社数	国内5社、海外6社	

*株主構成は、2025年7月末日時点の発行株式総数に対する、2025年10月実施の株式売出し後の保有株数に基づき算出

日本発のラグジュアリー・アイウェア・カンパニー

- 世界を代表する眼鏡生産地「福井・鯖江」の熟練したクラフツマンシップにより、自社で企画・デザインする高品質のアイウェアを製造・販売⁽¹⁾

金子眼鏡
ESTABLISHED 1958

眼鏡生産地「福井・鯖江」を代表する
国内アイウェア業界のトレンドリーダー

創業 1958年
売上収益 **108億円** (2025年1月期、前年比+25.2%)
～約90%が店舗売上
店舗形態 直営店：国内84店舗、フランス2店舗、中国4店舗、
香港2店舗、台湾・シンガポール各1店舗
(2025年10月末時点)
一式単価⁽²⁾ 約82,000円
国内法人 金子眼鏡株式会社、株式会社栄光眼鏡
株式会社ハンズ
海外法人 KANEKO FRANCE SARL、金子眼鏡（上海）有限公司
Japan Eyewear Holdings Hong Kong Co., Ltd.
Japan Eyewear Holdings Taiwan Co., Ltd.

Japan Eyewear Holdings

共通 国内法人：Japan Eyewear Holdings株式会社

フォーナインズ

機能を磨き上げることで、最高純度の品質
美しいフォルムを表現する高級眼鏡ブランド

創業 1995年
売上収益 **59億円** (2025年1月期、前年比+19.7%)
～店舗売上と卸売が約50%ずつ
店舗形態 直営店：国内17店舗、シンガポール1店舗
(2025年10月末時点)
一式単価⁽²⁾ 約87,000円
国内法人 株式会社フォーナインズ
株式会社タイホウ
海外法人 FOUR NINES SINGAPORE PTE. LTD.

共通 海外法人：Japan Eyewear Holdings International Co., Ltd.

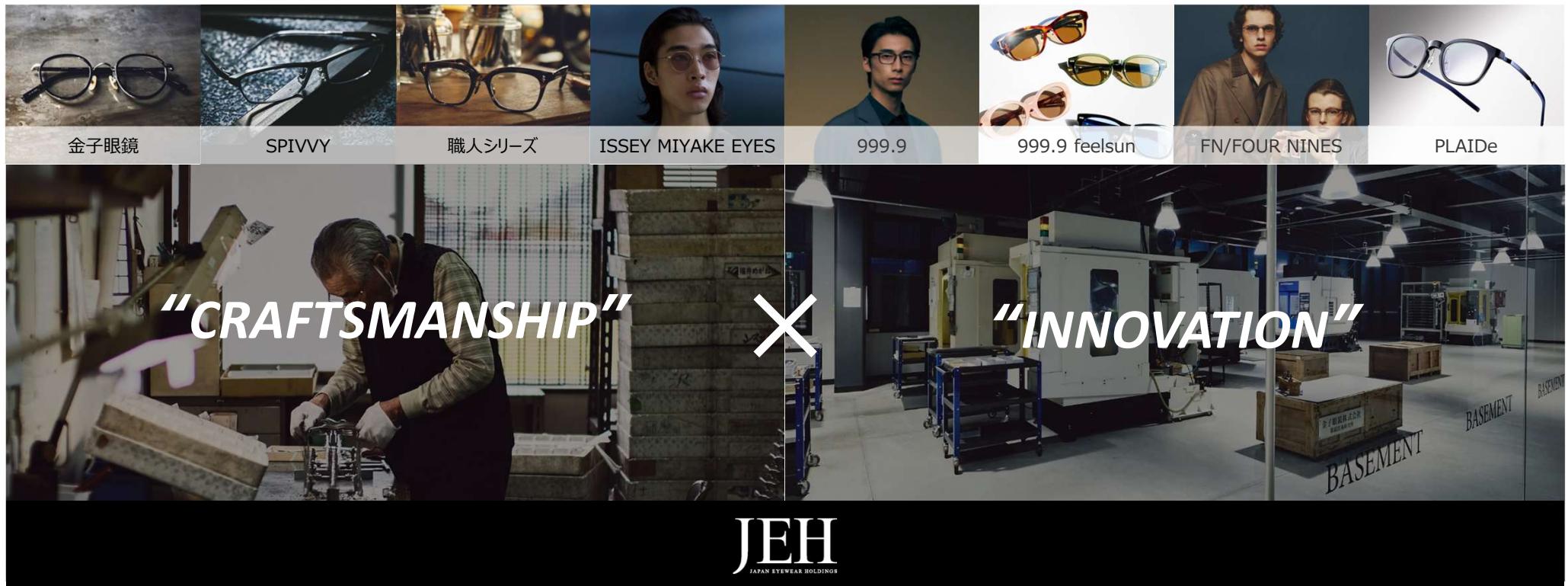
注：

1. 取扱店での販売もあり

2. 一式単価はフレーム及びレンズの購入単価合計。2026/1期Q3実績

ブランドコンセプト

眼鏡の世界三大産地である「鯖江」で培われた職人達の卓越した技とものづくりの魂に加え、デザイン性・機能性・ファッショナビティを実現する最新技術を融合し、高いクオリティを実現



ブランド哲学

- ブランド哲学の違いにより、両ブランドがそれぞれ独自のポジションを確立

Kinzoku (金子眼鏡)

靖江 OO 手造
金子眼鏡
ESTABLISHED 1958

Japan Eyewear Holdings

眼鏡は文化
作り手の物語とクラフツマンシップを重視
職人・物語・美意識を軸に感性に訴える

デザイン・アプローチ
プロダクト・ポリシー
訴求ポイント
ロゴ・アイコン
顧客像

ヴィンテージやクラシック要素の現代的解釈
職人による手仕事・時間をかけた製造
モノと作り手の「背景」に価値がある
控えめ。形や質感でブランドを語る
世界観と物語を愛する感性派
老若男女偏りなく幅広い層が支持

9999 (フォーナインズ)

9999
フォーナインズ

眼鏡は道具
機能性・掛け心地の追求が最優先
快適さと構造美を極める理性重視のブランド

デザイン・アプローチ
プロダクト・ポリシー
訴求ポイント
ロゴ・アイコン
顧客像

設計が美しさになる「機能美」
自社開発の機構・構造設計に特化した快適設計
製品そのものの「性能」に価値がある
控えめ。フレーム形状などで識別性を担保
道具としての完成度を求める理性派
40代～50代の男性がメイン顧客層

中期経営計画 数値目標

着実な売上成長・利益成長を実現するとともに、高ROEを維持する

売上収益
(2030/1期)

280億円

(年平均成長率 10%～)
(2025/1期比 +69%)

営業利益
(2030/1期)

100億円

(年平均成長率 13%～)
(2025/1期比 +89%)

営業利益率
(2030/1期)

36.0%以上

(2025/1期 32.0%)

ROE
(2030/1期)

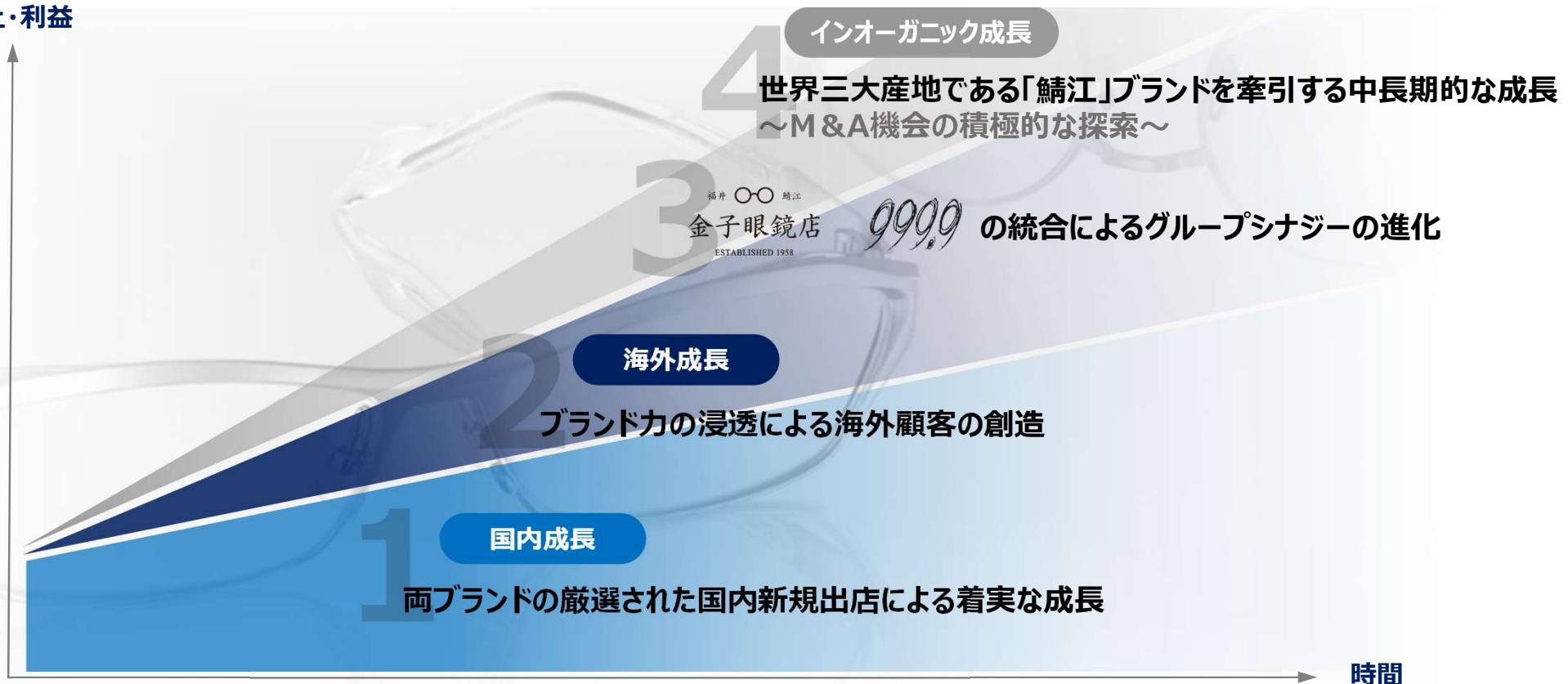
25.0%以上

(2025/1期 24.3%)

上記にはM&Aなどによるインオーガニック成長は含んでおらず、
M&A機会を積極的に探索することで、さらなる売上・利益の成長を目指す

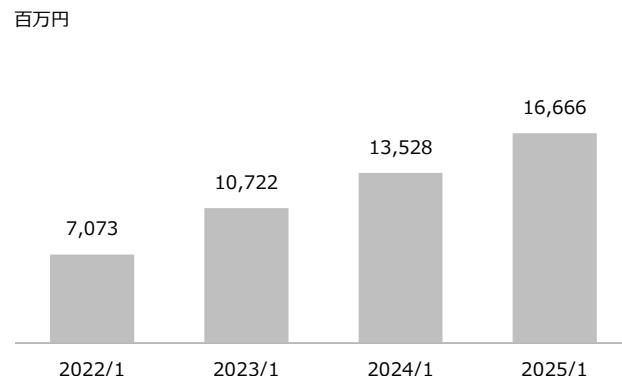
成長のロードマップ°

売上・利益

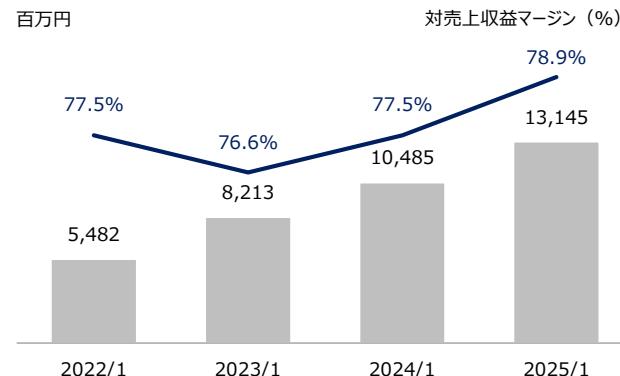


Key Financials

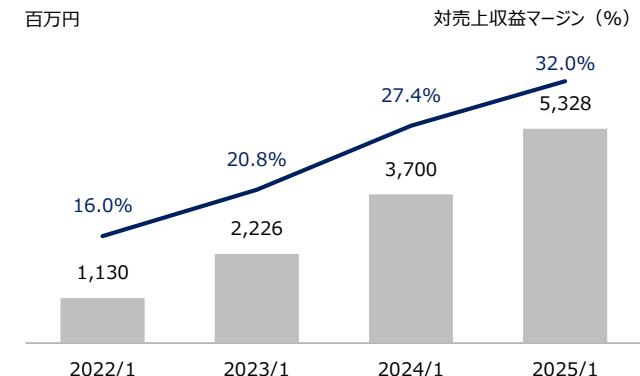
売上収益



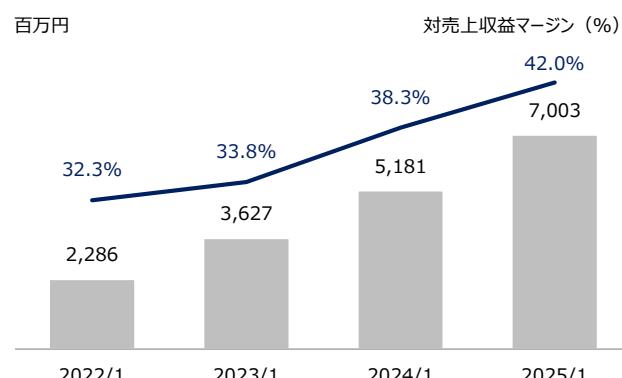
粗利益



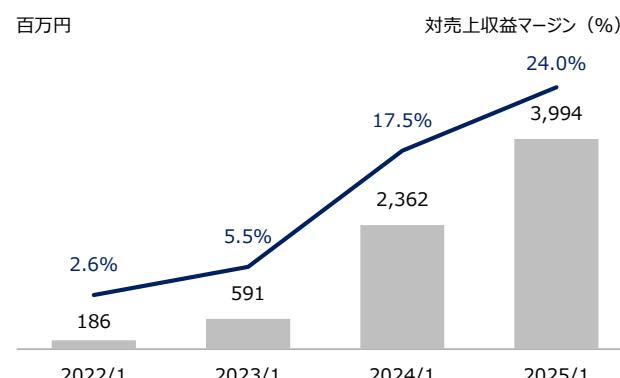
営業利益



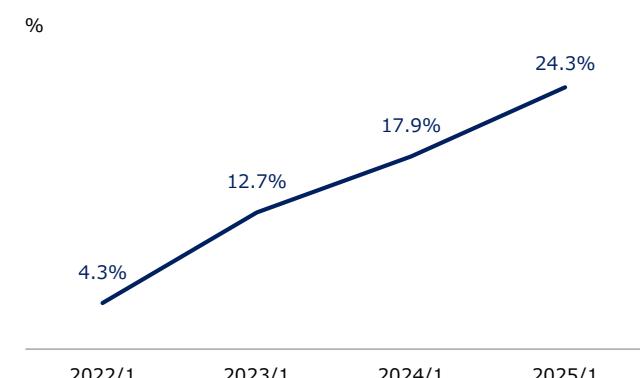
EBITDA (2)



当期利益



ROE (3)



注:

1. IFRSベース
2. EBITDA=営業利益+減価償却費+識別可能資産償却費
3. 当期利益/(資本金+資本剰余金+利益剰余金) (期末時点)

連結PL四半期推移

連結PLサマリー (百万円)					
2024/1期	Q1	Q2	Q3	Q4	Total
売上	2,918	3,485	3,286	3,839	13,528
売上総利益	2,274	2,682	2,540	2,987	10,485
営業利益	759	1,035	885	1,019	3,700
税引前利益	654	927	783	929	3,295
当期利益	294	737	514	816	2,362

2025/1期	Q1	Q2	Q3	Q4	Total
売上	3,861	4,439	3,795	4,570	16,666
売上総利益	3,017	3,516	3,011	3,600	13,145
営業利益	1,195	1,559	1,169	1,404	5,328
税引前利益	1,102	1,380	1,096	1,332	4,912
当期利益	736	940	746	1,570	3,994

2026/1期	Q1	Q2	Q3	Q4	Total
売上	4,191	4,745	4,485		18,900
売上総利益	3,334	3,728	3,577		15,050
営業利益	1,307	1,578	1,432		6,200
税引前利益	1,228	1,499	1,346		5,900
当期利益	782	960	908		4,000

連結PLサマリ－年間構成比					
2024/1期	Q1	Q2	Q3	Q4	Total
売上	21.6%	25.8%	24.3%	28.4%	100.0%
売上総利益	21.7%	25.6%	24.2%	28.5%	100.0%
営業利益	20.5%	28.0%	23.9%	27.6%	100.0%
税引前利益	19.9%	28.2%	23.8%	28.2%	100.0%
当期利益	12.5%	31.2%	21.8%	34.6%	100.0%

2025/1期	Q1	Q2	Q3	Q4	Total
売上	23.2%	26.6%	22.8%	27.4%	100.0%
売上総利益	23.0%	26.8%	22.9%	27.4%	100.0%
営業利益	22.4%	29.3%	21.9%	26.4%	100.0%
税引前利益	22.4%	28.1%	22.3%	27.1%	100.0%
当期利益	18.4%	23.5%	18.7%	39.3%	100.0%

2026/1期	Q1	Q2	Q3	Q4	Total
売上	22.2%	25.1%	23.7%		
売上総利益	22.2%	24.8%	23.8%		
営業利益	21.1%	25.5%	23.1%		
税引前利益	20.8%	25.4%	22.8%		
当期利益	19.6%	24.0%	22.7%		

有限会社ハンズ（現・株式会社ハンズ）の子会社化について

- ハンズ社は、福井県鯖江市に本社を置き、主として眼鏡フレームの表面処理事業を展開しております。当社グループが推進する眼鏡フレームの一貫生産体制において、表面処理は内製化できていない工程であり、また、同社の持つスキルと経験は、眼鏡業界において更なる飛躍を目指す当社グループにとって、製造力の強化となることが期待されます
今回の子会社化により当社グループが提供するサービスの拡大及び質の向上を図り、更なる企業価値の向上に努めてまいります
今後におきましても、非連続成長のための有力な手段として、M&A機会を探索してまいります

(1) 名称 有限会社ハンズ（2025年7月付で株式会社ハンズに変更）

(2) 所在地 福井県鯖江市

(3) 代表者 取締役 橋本 幸信

(4) 事業内容 眼鏡枠表面処理

(5) 資本金 3,000千円

(6) 設立年月 2001年2月

(7) 当社との関係 当社子会社である金子眼鏡株式会社と営業取引がございます。

ディスクレーマー

本資料は、当社グループについての一般的な情報提供を目的としており、当社の発行する株式その他の有価証券への投資の勧誘を目的とするものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、経済情勢、市場動向、消費者の嗜好の変化、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。